

平成 30 年 2 月 16 日
北海道旅客鉄道株式会社

札沼線（北海道医療大学・新十津川間）の新しい交通体系の提案内容について

以下は、現在当社で検討を行っている内容について、札沼線沿線まちづくり検討会議でお示したものです。内容については、今後、沿線自治体の皆様との協議をお願い申し上げたいと考えております。

1 基本的な考え方

新たな交通体系の検討にあたっては地域の皆様と一緒に鉄道よりも利便性が向上するような交通体系を実現して参りたいと考えております。

2 新しい交通体系について

北海道医療大学・新十津川間の沿線の方々の利用状況は月形高校への通学利用を除くと、極めて少なく、既存のバス路線による石狩川対岸の都市への移動が大半であることから、新しい交通体系としては、以下の3区間に分けて考えております。

なお新しいバス路線等の整備にあたっては地元事業者による運行をお願いしたいと考えております。また運行にあたっては国及び北海道の補助制度を活用することを考えております。

以上の新しい交通体系の実現に当たって、当社としては初期投資費用と運行経費について地元のご負担を一定期間支援いたします。

(1) 石狩当別・石狩月形間

- この区間は現在、並行するバス路線がありませんので月形高校への通学輸送及び沿線の方々の輸送手段として新規バス路線の設定を行います。バスの本数は今の列車本数よりも増便します。
- 月形高校の下校時間帯も増便し、利便性を向上させます。
- 新規バス路線は石狩当別駅での発着としますが、鉄道とよりスムーズな乗り換えが出来るよう北海道医療大学駅を接続駅とし北海道医療大学・石狩当別間の列車の増便を行うとともに、北海道医療大学駅設備の改善とバス乗換設備の新設を行います。
- 午前中の上りを増便し列車との乗継も改善しますので、札幌までのご利用が便利になります。

(2) 石狩月形・浦臼間

- 月形高校への通学輸送も含めた輸送手段を設定します。
- 浦臼町から土休日の札幌方面への移動手段を確保するため、現在平日のみ運行の浦臼・奈井江間の町営バスを土休日も含めた毎日運行とします。

(3) 浦臼・新十津川間

- 浦臼・新十津川間の鉄道利用は極めて限られたものであり、沿線の方々は既存の中央バス滝川浦臼線を利用していることから既存のバスを活用していきたいと考えておりますが、地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります。

なお、新十津川から札幌方面への移動手段としては、新十津川・滝川間の既存のバスをご利用していただきたいと考えております。

支援させていただく内容は地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります。

3 今後の進め方

以上の提案内容について、今後、地域の皆様との協議をお願い申し上げます。

札沼線(北海道医療大学・新十津川間の)新しい交通体系について

